

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 8 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団福寿会		
事業所名	グループホーム コスモス苑 タヤけ小やけ		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地 (電話) 0575-83-0178		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月24日	評価確定日	平成19年9月5日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 15 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 4.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 10 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	4 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鷺見病院・白鳥病院・慈恵中央病院・西村歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の中に、法人施設が5棟がゆったりと並びその周囲を散歩するだけでも十分な広さがある。地域の人は顔見知り度、一人で散歩されているときなど、見かけて連絡を入れてもらえる関係が出来ている。敷地内に母体法人の医院があり、さらに地域の病院とも連携が出来ていて医療面での体制が十分で安心である。ホームの中は、歩行器や車椅子で移動するのに十分なゆとりとした広さがある。広い中庭は、芝生がきれいでベンチやテーブルがおかれ、また、小さいが畑には野菜が作られ、花もきれいに咲いていて、のんびり出来る場所となっている。洗濯物や布団を入居者と共に干すことが出来る。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事を共に楽しむ事に関して、食事介助の必要な方の援助や職員の休憩への配慮もあり、全員が共に食事することは難しいが、常時一人は必ず共に食事をするようにしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	夜勤職員の複数化は現在ではまだ困難であり、夜勤者の業務負担を少しでも改善するため、早出勤の職員の時間を1時間早めるなどの出来ることから取り組む姿勢がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が開催され、グループホームの理解を得られるような内容で行われた。今後も定期開催を予定している。防災などで協力依頼をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回家族会が行われ家族同士で話し合う時間ももたれている。面会時に要望等を聞くように努めている。その他、意見箱の設置など、努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の敷地内で地域の盆踊が行われたり、地域の文化祭に入居者の作品を展示したり、連携がされている。ボランティアも多く訪れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での福祉介護医療の重要な役割を認識し、その理念で地域の人々の要求に応えたいと活動している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関と職員ルームに掲示されて共有化が図られている。	○	理念は共有されているが、さらに、理念の実践が日々の業務の取り組みに合っているか、会議や申し送り等の機会を利用し、振り返る場になることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や地域の行事である運動会、夏の盆踊り会場として法人の敷地を提供し、文化祭へ作品を発表している。また、保育園、障害者施設、ボランティアの受け入れなど交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価を活かすために話し合いがされ、夜勤者の業務負担を少しでも改善するため早出勤の職員の時間を1時間早めるなど出来ることから取り組みが始まっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年から運営推進会議を開催している。ホームの理解を得られるためにも、地域との関係づくりの向上に向けたいと2ヶ月に1回開催予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、運営上の問題などの問い合わせ等を行っている。市からの依頼などは今のところないが、あれば対応していく準備がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対して毎月苑便りを発行し利用者の状況を知らせている。また、金銭管理については面会時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開き、家族同士での交流、意見交換の時間を設け率直な意見が出やすいような工夫をしている。日々の面会のときに細かな要望等を聞いている。意見箱の設置がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限に抑えるよう努力され、入居者に支障が出ないよう気を配られている。異動等について家族には報告していない。	○	入居者家族との関係づくりからも、職員の交代については、家族の不安も十分考慮し、家族にも理解が得られるよう努められたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画担当者は研修を受けている。介護現場の職員やパート職員に対しては、勤務体制のこともあり、研修の機会が少ない。	○	外部研修の参加が難しい場合は、会議で出された業務上での課題などをテーマに内部でより良いサービスの向上に繋がる学習会を行なうなどの工夫に期待したい。理念やサービスの共有化を図る上で効果的かと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在同業者とネットワークづくりの話合いがされている。近隣のホームを見学に出かけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前訪問では、出来るだけ多くの情報をつかむよう努力している。入居後も慣れてもらうために、家族と一緒に泊まる事が出来るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族のような意識をもって共に助け合いながら生活できるよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族の意向はもとより、入居する前に利用していた施設や在宅での暮らしぶりの情報をもとに、入居者の言動の中からも職員が把握し検討するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議や日々の業務日誌を利用し、各職員の気づきなども計画に反映できるようにしている。家族・入居者からの要望を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は必要に応じ、また、定期的に見直され、家族の確認がされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他施設と連携し、入居者のサービス向上のために活用しあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を図り、入院時は情報交換に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	理事長の方針として取り組みたい課題であるが、具体的には行なわれていない。	○	今後、ホームとしての方針を明確にし、本人や家族、医師、職員などチームでどう取り組んでいくか具体化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーを守る意識を持ち、言葉かけや、個人情報の取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの好みや要望を把握するように努め、出来る限り希望に添った対応が出来るように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みやその日の体調に合った献立で、楽しみとなるような食事作りに努めており、出来る範囲で準備や片付けを共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴の他、必要時や希望する人は毎日でも入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて意欲を引き出し、野菜の手入れ、洗濯たたみ、取り込み、掃除など出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出ることが出来、行けない人も中庭に出て、外の空気を吸うことが出来る。週1回は近くの喫茶店へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないことへの理解があり、施錠はされていない。職員の見配り、気配りがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と協力し、年2回の訓練がある。地域に災害時の協力要請している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量が把握されている。個々にあった量や好みに応じて気ままに食べることが出来る状況がある。介助の必要な方には職員が気長に優しく対応していた。施設内の管理栄養士の指導を受けることができる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はスペースがありゆったりしている。外からの風や日差しが心地よかった。入居者の作品や季節の花などが飾られて、居心地よい空間づくりに努力している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には作り付けの棚があり、各自が写真や小物など自由に飾ることが出来、和らかな雰囲気がある。じゅうたんを敷いたり、家族の写真や手紙なども飾られていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。